

# 林業ぐんま



## 目次

会長・環境森林部長挨拶	1
普及コーナー	2
・第四十八回群馬県児童生徒徒木工工作 コンクールを開催しました	2
・おしらせ 第二十七回きのこ品評会 林政情報	3
・令和五年度群馬県建設工事表彰 林業労働力確保支援センターより	5
・雇用改善と担い手対策 各地のたより	6
(渋川) 消防と連携した 山林応急訓練を実施	6
(西部) 経営管理制度にかかると 市町村支援について	6
(藤岡) フォレストベース完成記念式典 神流森の市森と木のまつり	6
(富岡) 富岡高校一年生が職場体験学習 (吾妻) 中之条町木材活用センター開所式 (利根沼田) 森林三次元計測ツール 操作研修会を開催	6
(桐生) わたらせ森と木のまつり 地域を担う人	11
田島 靖久さん 櫻井 慎司さん 増田 雄太さん	11
森の談話室	12
・新鮮で安全なマイタケの生産販売 株式会社キノコ輪大(きのこわーるど) 代表取締役社長 鈴木晴男さん	12
群馬県森林・緑整備基金だより	13
・収穫期を迎える分収林 「高岩」社営林における林産事業計画	13

# 新春

2024

「林業ぐんま」はホームページでもご覧になれます  
<https://gun-fukyu.jimdofree.com/>

群馬県林業改良普及協会



群馬県林業改良普及協会長

## 狩野 浩志

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、日頃から本会の運営に格別なるご支援、ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、昨夏も大変な猛暑でした。この異常な暑さを称して、国連のアントニオ・グテレス事務総長は、「地球温暖化の時代から地球沸騰化の時代が到来した」と警告し、世界中で大きな話題となりました。

この地球温暖化をはじめとする気候変動の影響は、線状降水帯等による集中豪雨や台風の大規模化をもたらす自然災害を激甚化・頻発化させています。山地災害から県民の安心・安全を守るには、治山事業はもとより、森林の公益的機能を高度に発揮する森林の造成・整備が極めて重要です。

そのような中、令和6年度より国税として徴収される「森林環境税」は、令和元年度から「森林環境譲与税」として市町村と都道府県に配分が始まり、間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の推進、普及啓発等、森林整備及びその促進に関する事業に幅広く活用され、その取り組みは年々加速しています。森林の多面的機能を活かしながら、魅力ある県土・地域づくりへと発展し、持続可能な安心・安全な豊かな暮らしの実現に繋がることを大いに期待しております。

さらに県においては、今年度より林業の競争力強化、森林の新たな価値創出のため、「林業イノベーション推進室」を林政課に創設し、県産材の需要創出と生産体制の整備に取り組んでいます。当会としましても、県の施策に協力し会員の皆様とともに積極的に行動したいと考えています。

ところで本年の干支「辰」は、古来より草木の形が整った状態を表し「成功」や「成長」などの意味を持つ縁起の良い年と言われているようです。森林・林業・木材産業が、ますます「成功」や「成長」につながる充実した一年になることを切に願っております。また、当会としましても、全国の優れた取り組み事例や最新の林業技術・生産システム等を皆様に紹介しながら、普及活動を通して森林・林業・木材産業の発展に、これまで以上に取り組んで参る所存です。

結びに、皆様のご健康と益々のご活躍、そして今年が皆様にとって良い年であり、折念申し上げ、新年のあいさつとさせていただきます。



環境森林部長

## 須田 恵理子

新年明けましておめでとうございます。

群馬県林業改良普及協会の皆様には、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

国連のグテレス事務総長が「地球沸騰化」という言葉で警告したとおり、昨年世界、日本ともに観測史上最も暑い年になりました。群馬県では、桐生市で猛暑日数が46日に達し、国内の年間最多記録を更新しました。また、7月と8月に県内で降った雹は、農作物などに大きな被害をもたらしました。脱炭素社会の実現や災害レジリエンスの強化には、県民や事業者の皆様との連携が不可欠です。そのため、群馬県では、環境と経済の好循環を創出し、経済社会全体を変革する取組「グリーンイノベーション」を重点施策に位置付け、「革新的環境イノベーションコンソーシアム」を立ち上げるなど、国や自治体だけでなく、多様な関係者との連携による課題解決を図っているところです。

森林分野においては、県土の強靱化対策を図りながら、群馬県の恵まれた森林資源を持続的、効率的に活用し、需要創出と生産体制構築を両輪とする林業改革により「関東一の林業県」を目指します。そのため、今年度、林政課に林業イノベーション推進室を設置、地域機関には、林業政策専門官を配置し、スマート林業等の新技術による低コスト化、労働環境の改善、異分野との連携などの施策に取り組んでおります。新たな取り組みの一つであるJ-クレジット制度は、温室効果ガスの排出削減・吸収量をクレジットとして国が認証する制度です。群馬県としても、J-クレジット制度の普及を図り、森林整備の促進に取り組みます。

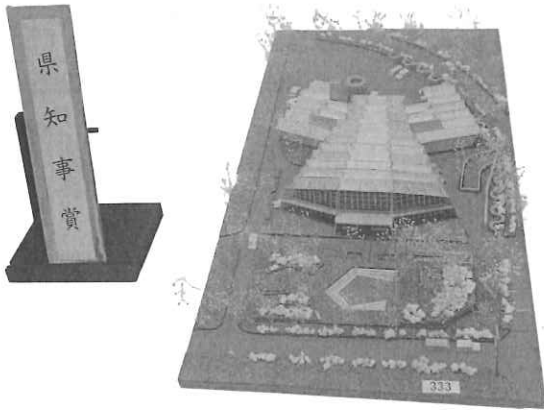
また、群馬県のきのこ生産につきましては生産量が全国でも上位であり、中山間地域の重要な産業です。生しいたげや、しいたげ加工食品については、植菌地を原産地として表示するようルールが見直されました。より一層、皆様に美味しく召し上がって頂けるような生産体制の構築に尽力して参ります。

本年も市町村や関係団体の皆様と連携し、群馬県の森林・林業・木材産業及びきのこ産業の発展のため全力で取り組んで参りますので、皆様の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

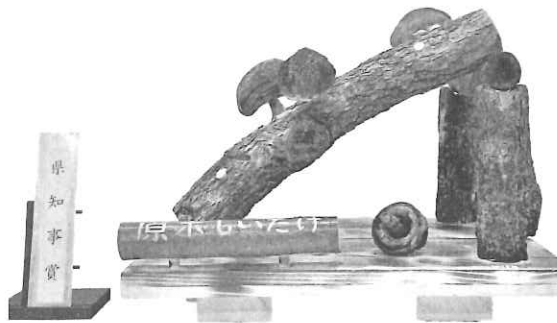
結びに、本年が幸多き年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

# 普及コーナー

## 第四十八回 群馬県児童生徒木工 工作コンクールを開催しました



「群馬音楽センター」  
高崎市立車郷小学校  
伊藤 暖人さん(6年)



「原木しいたけ」  
高崎市立京ヶ島小学校  
加藤 沙菜さん(6年)



「碓氷峠の関所跡」  
富岡市立高瀬小学校  
齋藤 結人さん(6年)



第二十六回きのご品評会  
金賞受賞しいたけ

県では、県木材青年協会と共催し、小・中学校及び特別支援学校の小・中学部に在学する児童生徒に「木材の良さ(温かさ・加工しやすさ等)」を知ってもらうため、木工工作コンクールを開催しています。

今年度は、11月10日(金)～11月12日(日)まで県庁一階県民ホール北側にて作品展示を行い、延べ820人が来場されました。

出品された作品は、群馬の良さが表現され、作品に仕上げる過程で、学習活動や構想を広げる場面において、沢山の時間を費やしたと思われまます。作品を目の当たりにすると、自然と笑みがこぼれ、気持ちをわくわくさせてくれる展示会になりました。

お知らせ

## 第二十七回 きのご品評会を開催します

今年度も2日間の日程で、初日に出品物の審査(1月23日)、2日目に表彰式・出品物の展示・きのごの一般販売・展示品の即売(1月24日)を行います。

即売には、厳選されたきのごをお買い求めいただけますので、是非足をお運びください。  
日程…令和6年1月23日(火)・24日(水)  
場所…群馬県庁1階 県民ホール(北側)  
前橋市大手町一丁目一番一号

問合せ先…林業振興課きのご振興係

TEL…027・226・3234

# 林政情報

## 令和五年度 群馬県建設工事表彰

群馬県建設工事表彰は、県民の生活及び経済活動等の基盤となる社会資本整備を適切に推進するため、群馬県が発注した建設工事等を適正な工程管理と優れた施工技術によって、他の模範となる工事を完成させた建設業者及び主任技術者等を表彰するものです。これにより品質の高い工事を確保するとともに、建設業等の発展及び施工技術の向上に資することを目的として、毎年、知事表彰、部長表彰、所長等の表彰を行っています。

環境森林部発注工事に係る令和五年度の表彰工事は、令和四年度に完成した契約金額五百万円以上の対象工事二百四十八件の中から、品質管理・出来形・出来ばえ等の審査基準に基づき、厳正な審査が行われ、知事表彰四件が九月六日、部長表彰十一件が十月二十六日、所長表彰六十六件が各発注事務所等の表彰式で受賞の荣誉に輝きました。

受賞された皆様に心よりお祝い申し上げますとともに、引き続き、安全第一で高品質の工事を完成していただくよう、御協力をお願いします。

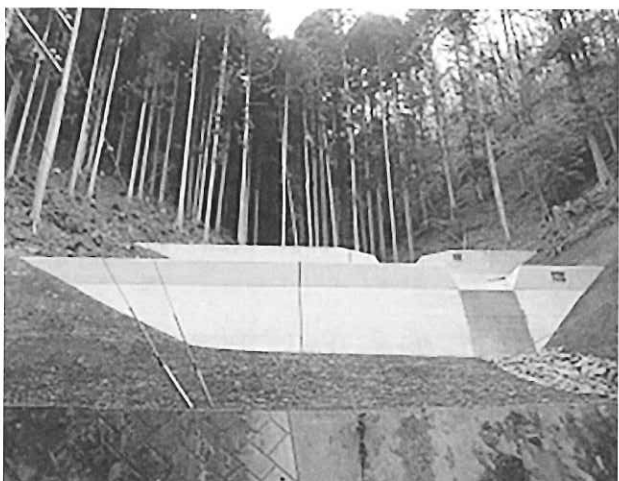
(森林保全課)



② 利根郡昭和村大字川額(大久保沢)地内



① 利根郡昭和村大字川額(清水沢)地内



④ 桐生市梅田町二丁目(胡麻小路)地内



③ みどり市東町座間(柱戸北山)地内

## 令和五年度 群馬県建設工事表彰(知事・部長)受賞者

知事表彰(環境森林部) 4箇所 4社

施 工 者	主任技術者	発注事務所	写真 番号
石坂建設(株) 諸田 光二	茂野 義則	利根沼田 環境森林	①
角屋工業(株) 飯島 千明	綿貫 浩次	利根沼田 環境森林	②
(株)金子建設 金子 和利	諏訪 有基	桐生森林	③
(株)新井土木 新井 正則	野澤 正樹	桐生森林	④

環境森林部長表彰 11箇所 11社

施 工 者	主任技術者	発注事務所	備考
(株)広友土建 廣神 孝俊	山本 恭輔	西部環境森林	
高橋建設(株) 高橋 鎮男	野口 正喜	西部環境森林	
上毛緑産工業(株) 高橋 範行	宮崎 貴	藤岡森林	
塚本建設(株) 塚本 毅	小板橋 遼平	藤岡森林	
東光建設(株) 竹内 猶則	生方 竹良	吾妻環境森林	
角田建設工業(株) 角田 恵子	小林 徳茂	利根沼田 環境森林	
石坂建設(株) 諸田 光二	茂野 義則	利根沼田 環境森林	
木内建設(株) 木内 孝広	藤井 一夫	利根沼田 環境森林	
(株)椎坂建設 小林 好	青木 明	利根沼田 環境森林	
坂本建設(株) 新井 茂男	秋山 知一	桐生森林	
貴船工業(株) 大川 博之	松村 佐千男	桐生森林	

# 雇用改善と担い手対策

## 【林業雇用管理研修会】

群馬県森林・緑整備基金（以下基金）では、県知事から指定された「群馬県林業労働力確保支援センター（以下センター）」が主体となり、「林業就業支援事業」を行っています。

これは、厚労省の事業で全国森林組合連合会（以下全森連）からセンターが受託しているもので、本県のほか、多くの都道府県が参加しています。

この事業の一環として、九月八日（金）日本トーターグリーンドーム前橋で「林業雇用管理研修会」を開催しました。当日は、林業事業体を中心に四〇人が出席し、会場がほぼ満席となりました。

講義の一点目は「インボイス制度の概要」で、講師は加藤会計事務所、代表社員加藤真一氏に依頼しました。研修ではインボイス制度の基礎や、森林組合の組合員に対する「協同組合特例」についての説明がありました。インボイス制度については、理解の程度に個人差がありますが、今回は基礎をわかりやすく説明いただき、「制度の仕組みがとてもよく分かった」との声をいただきました。

二点目は「若者の職業選択の傾向と定着のポイント」と題し、株式会社ワークエントリーぐんま事業部長、太田広子氏に講師をお願いしました。太田氏は若者の就職を支援す

る「ジョブカフェぐんま」のチーフマネージャーをされています。太田氏からは、若者にとって魅力ある人は、従来人気があったカリスマ性よりも、話を聞いてくれる先輩タイプであること、どこで働くか+誰と働くかが職業選択の大きな要因であることなど若者の考え方の傾向についての話がありました。アンケートでは、若者の心理が理解できたとの声もあり高評価でした。

今後も雇用改善に役立つテーマで研修を開催していきたいと考えています。



「インボイス制度の概要」加藤氏



「若者の職業選択の傾向と定着のポイント」太田氏

## 【森林・緑整備基金事業及びセンター事業】

基金（センター）では、担い手の確保、雇用改善を目的に各種取組みを展開しています。

以下、主な取り組みを紹介いたします。

- ・ 新規就労者支援
- ・ 高機能安全装具導入促進
- ・ 資格取得促進
- ・ 林業技術向上、緑の雇用に対する助成
- ・ 高性能林業機械借用補助
- ・ 事業体への巡回訪問、指導
- ・ 林業求職者に対する就業相談

なお、「ぐんま森林・林業就業ナビ【森ワーク】<https://moritwork.jp>」について、就業に関する話題や認定事業体の紹介などを行っています。是非ご覧ください。

# 各地の便り

## 消防と連携した 山林応急訓練を実施

林業の労働災害は、他産業に比べ発生率が高いだけでなく、急峻な地形や携帯電話が使用できないなど、山間地特有の悪条件から緊急時の対応に大きな影響を及ぼしています。

渋川広域森林組合では、令和5年9月21日と10月12日に渋川広域消防本部と連携した山林応急訓練を実施しました。消防本部の署員は、今回のような取組が初めてにも関わらず打ち合わせの段階から非常に協力的で、林業の労働災害の現状にも驚かされていました。

9月21日に渋川合同庁舎会議室において、主にチェーンソーでの切創を想定した応急処置や搬送方法と実際に119番を使用した通報などの室内訓練が行われました。

10月12日には、渋川市総合公園の山林内で現場訓練が行われました。訓練内容は、チェーンソーでの切創とかかり木処理の際の打撲という想定で



室内訓練の様子

実施されました。当日は森林組合の安全大会も兼ねており、協力事業体が見学する中での訓練となりました。訓練後には消防本部へ質問するなど

理解を深めました。また、訓練実施後の11月2日には、森林組合の現場フォレスターが講師となり、消防署員に対しチェーンソーのメンテナンスや風倒木の伐木訓練が行われました。

今回の訓練は林業の労働災害に対する意識向上だけでなく、森林組合の技術を地域の安全に生かす素晴らしい取組みとなりました。引き続き、労働安全の確保に努めていきたいと思えます。

(渋川森林事務所通信員)



風倒木伐木訓練の様子



現場訓練の様子

## 経営管理制度にかかる市町村支援について 市職員を対象に間伐研修を実施

森林経営管理制度が令和元年度からスタートして本年五年目を迎えた。

意向調査により市に管理を委ねたいと回答された森林の内、経営管理が不適と判断された森林や配分計画を立てたが、提案書が提出されなかった森林については、市町村が自ら森林整備を行う「市町村管理事業」が令和四年から実施されている。

しかし、市職員は林業に対する専門技術を持している職員も少ない中、森林整備の設計や現場管理等を行わなくてはならない状況である。

県内では、今年に入って林業現場での労働災害が増加したことから、「群馬県林業現場作業の災害・事故多発警報」が二回出されている。



そのため、市町村管理事業において、市が自ら工事を発注すると共に現場の管理・監督を行うに当たって、市職員の林業技術や林業に対す

# の便り



る知識、林業労働災害の知識の向上を目的に、間伐研修会を開催した。

研修会は、市職員を対象として、森林整備（間伐）に係る座学と現地視察研修とした。

高崎合同庁舎会議室において、二時間の座学を行い、その後高崎市十文字町に移動して実際に間伐が行われている様子を二時間程度視察した。

市職員9名、事務所の若手職員3名が研修に参加し、普及指導職員と所長以下一名、地元森林組合職員二名で総勢二十名で行った。

参加者に感想を聞いたところ、「勉強になった」「実際の木の伐採が見られ非常に良かった」など、有意義な研修となった。

今後も林業に対する知識や林業技術、林業労働災害のリスク等について、実践的で理解し易い研修を行い、技術の普及を計って行く必要がある。

（西部環境森林事務所通信員）

## フォレストベース完成記念式典 神流森の市 森と木のまつり

神流町では、神流町小平にある道の駅「万葉の里」の対岸を一体として整備し、フォレストベースと名付け、神流町産材の魅力発信の拠点としました。この拠点の完成を記念し、令和五年十月十五日に、「フォレストベース完成記念式典 神流森の市 森と木のまつり」が開催されました。



木育体験ブース

道の駅から対岸にかけては、今年度完成した万場大吊橋が架かり、来場者は神流川を見下ろしながらスリル満点の吊り橋を渡っていました。そ

こから会場へ向かう途中には、木造建築の伝統技術を学ぶ若手大工ら「大工志塾」が手がけた五重の塔やあずまやがあり、来場者は新たな観光スポットを間近に見学しながら、イベント会場へアクセスしていました。

イベント当日は、記念式典のほか、メインステージでのコンサートや地元飲食店の出店

など、さまざまなイベントが実施されました。体験エリアでは神流杉体験として木登りやチェンソー競技日本チャンピオンの今井陽樹さんとの林業体験、木育セルフケア体験としてクラバス（棒状の木の楽器）作りなどが行われました。森林事務所も緑の募金ブース及び木育広場（木育体験ブース）を設置し、イベントに参加しました。午前中はあいにくの雨模様でしたが、午後は晴れ間が見られ、家族連れなど大勢の人で賑わいました。

神流町は林野率9割と、スギやヒノキを主体とした森林資源が充実しており、神流杉・神流檜として地域材のブランド化にも力を入れていくと見込んでいます。今後町などと連携して森林資源を活用していくことで、地域全体を盛り上げていきたいと考えています。

（藤岡森林事務所通信員）



木登り体験の様子



## 富岡高校一年生が 職場体験学習

十一月七日から九日までの三日間、富岡高校一年生の生徒三名が富岡森林事務所で職場体験学習を行いました。このうち一名は女子生徒でした。

一日目はキノコ生産現場の視察、二日目は木材工場の見学、大桁県有林での林業機械見学、三日目は、富岡市・甘楽町の山林で造林検査の補助体験と土場を見学しました。

造林検査では、富岡市・甘楽町のスギ造林地（計二ヶ所）の現地検査に立会いました。

森林事務所の職員から伐採・植え付けについて説明を受け、施工面積、植栽密度、苗木規格が補助金申請どおりか確認作業をしました。嫡川東部森林組合職員から、デジタルコンパスの使用方の説明を受けました。



土場見学

土場の見学では、森林組合職員から丸太の材積の計算方法（末口二乘法）の基調説明から始まり、出荷先は主に木材市場であるこ

と、直近の出荷先である群馬県素材生産流通協同組合の市況情報を用いて、丸太取引価格の現状や使用用途の変化の説明を受けました。

その後、森林組合職員が富岡高校OBであることから、進路選択の考え方、受験勉強の心構えなどのアドバイスを受けました。

今回、生徒たちが体験先に富岡森林事務所を選んだ理由を聞いてみたところ、「自然に興味がある」「都市の開発と森林政策の関わりに興味ある」「兄が県職員のため同じ県職員になりたい」との回答でした。また、体験学習の感想として、「昔と今で比べて、なぜ木材の需要が少なくなったのか知りたい」「林業に関する仕事、進路先を調べてみたい」「林業はなぜ人手不足なのか調べてみたい」などがありました。

生徒たちには、甘楽富岡地域の森林・林業への関心を高める有意義な機会となったようで、このような取組を返して、この地域の林業後継者が育ってくれることを期待しています。

（富岡森林事務所通信員）



苗間の確認状況

## 中之条町木材活用 センター開所式

中之条町上沢渡（旧沢田小学校）で整備を進めていた木材活用センターの開所式が、令和5年9月30日（土）に林業関係者一〇〇名の参加のもと盛大に行われました。

木材活用センターは町の面積の87%を占める森林の有効活用を図るため、中之条町と指定管理者である㈱ユハラで建設が進められ、製材所とその加工所、乾燥機のほか、木質チップ工場が整備されており総事業費は6億3千7百万円の大事業です。

式典では、中之条町の外丸町長から町産木材の付加価値の向上や森林教育及び林業の担い手育成について、㈱ユハラの村上社長から最先端の機械で従来の3倍の製材が可能であることについて挨拶があり、テープカットの終了後には出席者で木材加工機械の稼働状況を見学しました。



# の便り

同センターの稼働により、2027年には、年間7千6百m<sup>3</sup>の原木が消費され、製材品4千5百m<sup>3</sup>とチップ2千m<sup>3</sup>の生産が計画されており。

中之条町では、広葉樹の有効活用として家具などを製作する「Nプロジェクト」や子供たちを中心に受け入れる「森の学校」、また林業への従事を目指す人たちの教育の場である「林業実践学校」なども同地で計画されています。

木材活用センターの開業により、中之条町の林業基盤強化、地域経済の活性化が期待されており。

新型コロナウイルス感染症の収束もつかの間、不安定化する国際情勢により原木価格も乱高下するなかでの船出となりましたが、事務所としても素材の安定供給、人材確保等協力していきたいと思っております。



(吾妻環境森林事務所通信員)

## 森林三次元計測ツール 操作研修会を開催

近年、ICTなどの新技術の開発が著しく進展しており、森林・林業分野においても新技術を積極的に活用し、森林管理や林業の効率化等を図ることが期待されています。

しかし、本県ではまだICT機器による活用事例は少なく、普及率が低いのが現状です。そこで、まずは機器に触れてもらい、その有効性について知ってもらうため、森林組合の職員を対象とした『森林三次元計測ツール操作研修会』を令和5年9月29日に開催しました。なお、この研修は、参加者間の交流や活発な意見交換を期待し、渋川、利根沼田、桐生の三事務所合同で実施しました。

研修では三種のツールの概要について、林業試験場職員から説明を受けた後、研修会場である県立赤城公園内でさっそく操作を体験。最初は、iPhone 及び iPadに搭載されたLiDARを用いた森林計測ツール「マップライ」を使い、標準地の設定、毎



木調査、周囲測量、木材検知の操作を参加者全員が体験しました。

次に、iPhone等よりも更に遠くへレーザー光を飛ばすことができ

る「長距離LiDAR」を使用し森林内の計測を体験。取得データの解析結果について画面上で確認をしました。最後は、複数の衛星を捕捉することにより、高精度での位置情報取得が可能となるGNSS受信機について情報取得の際の条件などの説明を受けて、使用方法の確認を行いました。

操作研修後には、グループにわかれ意見交換を実施。参加者から「操作が簡単で使いやすい」、「職員の高齢化や人手不足が著しい中で、労働時間の短縮につながる」等の活用に関して前向きな意見が出ました。一方で、「精度が心配」や「県の基準に適合しないと使用できない」等の課題を指摘する声も。

このため、本事務所では今後、「マップライ」をはじめとしたICT機器の本格活用に向け、精度検証・データ収集を実施していく予定です。

(利根沼田環境森林事務所通信員)



## わたらせ森と木のまつり

去る十一月五日（日）、桐生市稲荷町（新川公園）に於いて「わたらせ森と木のまつり」が四年ぶりに開催され、約二〇〇〇人の来場者がありました。この行事は、地域の生産者団体が主体となり、消費者に対して木材やきのこ等地産物の林産物の普及と販売促進活動を展開することにより、地域の森林・木材・きのこの産業の活性化を図ることを目的に開催しており、今回で十九回目を迎える地元行事として定着しています。

当日は、曇天に一時日の光も差し込み、やや暑いくらいの良天候に恵まれ、この日を待望していた入場者の方々が賑わいました。催し物では、東毛地区きのこ生産者連絡協議会の会員である地元のかきのこ生産者が、原木栽培や菌床栽培など、それぞれの方法で生産したシイタケ、マイタケなどを



きのこ汁の無料配布



木工工作(棚や椅子の作成)



薪割の体験

たくさん使ったきのこ汁を無料配布してPRを行い、来場者の方々からの美味いという声や公園各所で聞かれました。あわせて、生産者が自ら栽培したきのこの直売を行い、地域の方だけにとどまらず、当日イベントを知って来られた東京の方への熱心な説明をしている姿も見受けられました。

また、芝生広場では、木の椅子・棚づくり、ネイチャークラフト、コースターづくりやチェーンソー体験、薪割り体験など、多くの方が林業・木材産業にちなんだ体験を楽しまれています。

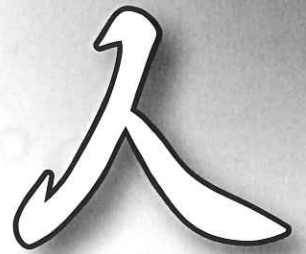
桐生森林事務所では、会場内にあるヒント

から答えを探して回答をする『森林クイズ』を企画し、参加者の皆さんに群馬県の森林に関する知識を深めてもらい、景品として、地域の工房で作られた木のおもちゃ等をプレゼントしました。合わせて積み木をはじめとして、輪投げ、木馬、魚つり等、木製のおもちゃを多数用意し、来場された方に触れて遊べるブースを設けて、木育の促進をはかりました。

このような取り組みを通じて、来場者に森林への愛着や理解を深めていただき、ひいては地域林業の活性化及び地域内循環の礎となることを期待するところです。

(桐生森林事務所通信員)

# 地域を担う



多野東部森林組合

田島 靖久さん

一 趣味

バイクツーリング

二 今後の抱負

所属する班内はもちろんです、他の班や事務所チームとのコミュニケーションを大切に、会社全体で盛り上げられるように貢献していきたいです。

多野東部森林組合

櫻井 慎司さん

一 趣味

読書、ランニング

二 今後の抱負

・事故、ケガなく安全作業を心掛けます。  
・出来ることを一つひとつこなし、経験を増やすことで地域の皆様に役立てるようになります。

有限会社檜原愛林

増田 雄太さん

一 趣味

釣り、愛車カスタム

二 今後の抱負

まだまだ未熟で経験不足ですが、どんどん腕をみがいて、会社の柱になれるよう頑張ります。日本一の樵を目指します！



# 森の談話室

## 新鮮で安全なマイタケの

## 生産販売

株式会社キノコ・輪大（きのこ・わーど）

代表取締役社長 鈴木 晴男さん



鈴木社長

鈴木晴男さんは、高崎市倉賀野町で株式会社キノコ・輪大（きのこ・わーど）を経営しマイタケ生産を行っています。マイタケの量産化が普及され始めた昭和五十六年から当地でマイタケ作りを開始しました。当時は菌床栽培の自動化がなされておらず、クリーンルームや製造ラインの技術も低い状況でした。雑菌に弱いマイタケ作りは試行錯誤の連続でしたが、多くの方々の知恵をいただき、安定的な生産の確立に努めてきました。平成六年に株式会社きのこワールドを設立し、当初の生産能力は六百キログラム/日でしたが、平成九年に新工場を増設したことで、千キログラム/日まで向上しました。以降、高品質のマイタケの生産者であり続けることを

目標として今日に至っています。

マイタケは栽培に適した温度湿度帯が狭いので、室内の温度湿度を一定に保つ技術確立したことが、鈴木さんの生産技術の特徴です。さらに、体育館のような広い栽培室で、場所による温度湿度ムラが生じないように、室内空気の循環を行うことで成長の均一化を図っています。

栽培を開始した当初は、菌床一株当たり五百グラムを達成することを目標としていました。目標達成には、種菌メーカーの技術者が考案した培地（菌床）に原木シイタケ栽培に使用したほだ木（廃ほだ）を混合する技術が有効でした。「廃ほだを利用すると菌床内に適度な空隙が確保でき、これが大ぶりのマイタケの発生に有効だったのではないか。」とのことでした。現在は菌床一株当たり八百グラムを安定して収穫できる技術の確立を目標に取り組んでいます。

福島第一原子力発電所による事故の影響で、原木シイタケ生産者が減少し、廃ほだの確保が難しくなってきたので、代替材料の確保についても検討しています。シイタケ原木と同じコナラを伐採して、直接培地に利用するというものです。「伐採直後のコナラは樹液が多くてすぐには使えないので、数か月寝かせてから利用すれば使えるのではないか。」とのことでした。「コナラの採取には、

過去の放射性物質検査で使用不可であった原木林で、年数が経過している箇所再検査を行い、使用の可否を情報提供していただけないか。」とのことでした。

キノコ・輪大（きのこ・わーど）で栽培されたマイタケの中で、厳選された上級のマイタケを「びつくり舞茸」として販売しています。マイタケ特有の香りと、味、菌ごたえがあり、美味で上品な味わいが楽しめるということです。

鈴木さんは最高のマイタケをいつでも提供できるように空気を磨き、温度湿度を極め、育成光の改良を続けているとのことでした。

更に美味しく美しいマイタケを提供できるように、日々研究開発に努めておられる鈴木さんの姿勢は、次世代の生産者の手本となっていることを実感しました。

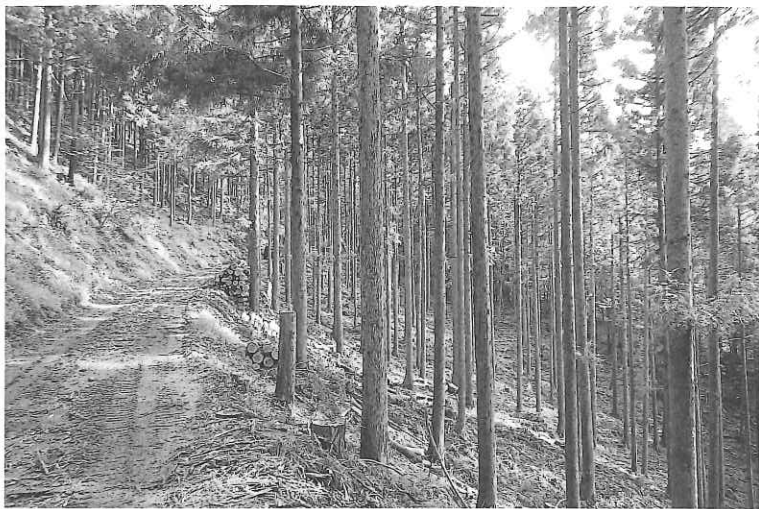
（西部環境森林事務所通信員）



施設内のマイタケ

# 群馬県森林・緑整備基金だより

## 収穫期を迎える分収林 ～「高岩」社営林における林産事業計画～



現在の高岩社営林の様子

群馬県森林緑・整備基金（以下「基金」）では、森林所有者に代わって植栽、保育管理を行い、主伐時に得られた収益を分け合う「分収契約」を締結し、分収林として全体で約1,820ha（令和4年度末現在）の管理・経営を行っています。

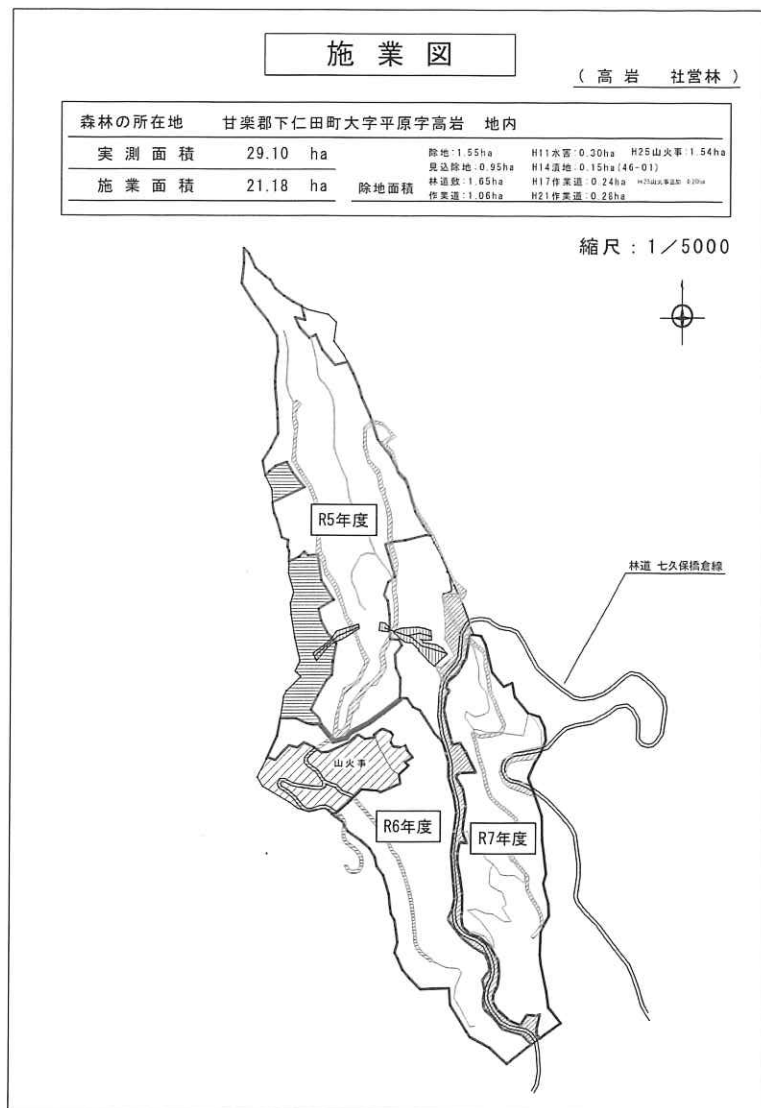
基金が管理する分収林には、すでに林齢が50年を超えるものもあり、本格的な利用期を迎えつつあります。

ここに取り上げた「高岩社営林」は下仁田

町平原に位置し、施業は昭和48年より始まり、4カ年にわたって26.9haの植栽を行いました。その後、改植や除伐、枝打ちや獣害の防除対策など、長期にわたり施業を行ってきたものであり、現在の管理面積は21.2haとなっており、スギ、ヒノキが成林に近づいた状況となっています。「高岩社営林」では、今年度より3カ年にわたり利用間伐を実施し、合わせて1,500㎡の木材の搬出を計画しているところです。

このように、社営林では成熟した利用可能な森林が増加し、今後、分収契約の終期を迎えることにより皆伐を含め伐採が本格化することが期待されます。

森林所有者をはじめ関係者各位のご協力により造成された森林が、資源として活用され、地域の経済活動に役立つよう努めてまいりますので、当基金の活動に引き続きご協力をいただけますようお願い申し上げます。



林産事業計画地



# 坂本建設 株式会社



代表取締役 新井 茂男

本社  
〒376-0013

群馬県桐生市広沢町4丁目2035-1  
TEL (0277) 54-1421  
FAX (0277) 52-9502

仕事を通じて郷土に奉仕



# 石坂建設株式会社

代表取締役 諸田 光二

〒379-1203 群馬県利根郡昭和村糸井2308

☎ (0278) 22-4559(代) FAX (0278) 23-3077



～地球にやさしい緑のリサイクル～

小田原緑化開発株式会社

沼田市町田町694-1  
TEL:0278-22-2356



株式会社オダワラ

前橋市泉沢町1250-6  
TEL:0278-22-2356

木炭・木酢液の生産・販売、檜材の買取をしています。

# 片品村木炭組合

組合長 須藤 賢一

〒378-0414 利根郡片品村東小川3325

TEL・FAX 0278-58-2596

群馬県リサイクル緑化協会会員 ISO 9001 / 14001 / 45001 認証



# 上毛緑産工業株式会社

代表取締役 高橋 範行

- ◆ 本 社 〒370-3607 群馬県北群馬郡吉岡町小倉 827-87 TEL 0279-54-7723 FAX 0279-54-8603
- ◆ 仙台営業所 〒983-0005 宮城県仙台市宮城野区福室 4-2-35 TEL/FAX 022-786-1406
- ◆ 上ノ原試験研究所 〒377-0000 群馬県渋川市上ノ原 3223-4 TEL/FAX 0279-24-3453

URL <http://www.jouryoku.com/> E-Mail [webmaster@jouryoku.com](mailto:webmaster@jouryoku.com)



森林土木事業を通じて、山村の安全・安心と山村振興に貢献

## 群馬県森林土木建設協会

会長 山藤 浩一

〒371-0854 群馬県前橋市大渡町1-10-7(群馬県公社総合ビル6階)  
☎(027) **280-6256** FAX(027) **255-6265**  
E-mail: [gun-sidokeki@tiara.ocn.ne.jp](mailto:gun-sidokeki@tiara.ocn.ne.jp)

～ 森と緑と笑顔のために ～

### 一般財団法人 群馬県森林・緑整備基金

〒370-3503 群馬県北群馬郡榛東村大字新井2935  
群馬県林業試験場 別館内  
TEL 027-386-5901 FAX 027-386-5902

森づくり、森林調査、林業用資材の販売等をしています。

### 一般財団法人 日本森林林業振興会

前橋支部

支部長 高 嶋 伸 二

〒371-0035 前橋市岩神町4-17-3  
TEL (027) 231-2270 FAX 233-0992

令和六年一月一日 発行

表紙の写真

令和5年度群馬県森林土木写真コンクール最優秀賞  
撮影場所 多野郡上野村大字野栗沢(向山)地内  
受賞作品

題名 「あれから...22年」  
撮影者 藤岡森林事務所 高宮 和彦

発行責任者 行 群馬県林業改良普及協会  
印刷者 杉浦印刷株式会社  
印刷者 野 浩 志